



人権教育だより

島根県立大東高等学校

令和5年度

3学期号

2・3年生 2学期の人権学習のテーマ ～同和問題について～

2学期は、源氏堂の会代表の三浦成人さんをお招きして人権・同和問題についての講演を聞きました。

三浦さんのご両親のお話や、三浦さんご自身の壮絶な差別体験についてうかがいました。三浦さんは、講演中生徒たちに語りかけるように、そして時折涙を浮かべて話をされ、その姿に生徒たちは心を打たれ、誰もが他人を差別せず、自分らしく生きることの大切さを考える貴重な機会となりました。「生きるということは、誰にでも与えられた権利です。」三浦さんのこの言葉をぜひこれからの人生に役立ててほしいと心から願うとともに、みなさんの"今"を一生懸命に生きてほしいです。



～生徒の感想より～

世の中には(いじめ)(差別)(仲間外し)などたくさん不当なことが続いていると思います。昔だけではなく今現在もあるという事実はとてもかなしいです。自分の生まれ育った環境だけで判断され根も葉もない噂を流され誹謗中傷など受けている人がたくさんいるこの環境は許せません。今の自分達に何ができるのか今の自分達の行動は正しいのか改めて考えることができる場でした。もう一度自分と見つめ直し世界みんなが笑顔いっぱい環境作りをしようとおもいます。

三浦さんが言われた「差別に対する認識がここまで変わったのは、思っただけではなくそこからなにかしようと、勇気を出して行動した人がいたからだ。」という言葉にハッとさせられました。行動に移すことが難しいのは、私も感じています。そこを超えられる三浦さんのような強くてカッコいい人間になりたいです。

同和問題については中学校などでも習っていたけど、具体的に知りませんでした。部落差別がそんなにたくさんの地域の沢山の人の関わっていたと知り驚きました。部落差別をされていたのは前のことだと思っていたけど、最近まで続いて今もされているかもしれない状況を知り、いじめも含めて絶対にやってはいけないことだと思いました。部落差別された方はどこにいても自分が差別されてしまうかもしれない恐怖と戦っておられんだと知りました。自分が生まれた本当の場所を言えないことは、本当に辛いなと感じました。来年話の続きが聞けるので、今日のことをしっかり覚えておきたいです。


*2年生は、三浦さんから来年度3年生になった時に今回のお話の続きを聞く予定になっています。




1年生 ～ちがいのちがいについて～



1年生は、人権学習 HR で「違いの違い～偏見と差別について考える～」について学びました。身の周りにあるちがいについて、「あってよい違いか、あってはならない違いであるか」を、グループ内で自分の意見を述べるとともに、友達の意見についても耳を傾け、多様なものの見方があることに気づきました。

～生徒の感想より～  世の中には意識していないだけで、かなり身近なところにも「ちがい」があることがわかった。あってもよいちがいとあってはならない違いがあるけど、あってはならないちがいを私たちの行動や意識で、どのようになくしていくかが大切だと思った。その「ちがい」によって差別や偏見が生まれ、傷ついている人が世の中にはたくさんいるから、ちがいを受け入れ、協力し合うことが大切だと思った。また、話し合いの中で、いろいろな考えがでたけど、否定することなく話し合いができたからよかった。

 あってもよい違いなのか、あってはならない違いなのか判断を迷ってしまう事例がいくつかありました。それはきっと自分の中で無意識に判断してしまっているからだと思います。自分にとって当たり前のことが、誰かにとっては納得できないこともあるんだと今日のHRを通して気づくことができました。

家族のケアをしている、ヤングケアラーをご存じですか？

元ヤングケアラーの井上恵理子さんをお招きして、ご自身の体験をもとにヤングケアラーについてお話をいただきました。ヤングケアラーとは、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものことをヤングケアラーと呼びます。



井上さんが、「家族のことをすることはわるいことではない。大切なのは、家族のお世話と自分自身の生活のバランスが大切である。」「ヤングケアラー＝かわいそう・支援しないといけないではない。家族のために何かを考えて生きることも大事。それと同じように自分のために何ができるかを考えることも大切にしてください。そして一人で抱え込まず、周りの人に甘えてください。」という言葉が印象的でした。

～ピンクシャツデー～ ピンクシャツデーキャンペーンは、カナダで始まった「いじめ反対運動」です。



3月13日～14日の2日間、生徒会が「いじめや偏見・差別のない学校生活を送れるように」と、みんなに呼びかけました。生徒・教職員たちは、ピンク色のものを身につけることで「いじめ反対」の意思表示をしました。